明治廿一年六月印行

語典

京都　文求堂藏

815.Y267g

語典

緒言四則

一世間流布ノ語學書其數少シトセズ、然レモ大概皆言葉の玉緒、詞の八衢等ヲ摸範トシテ、未舊套ヲ脫セズ、畢竟歌詠ヲ學ブニ過ギズ、況ヤ其文章ノ如キ、强ヒテ古風ノ言辭ヲ用フルヲ以テ、初學ノ童生見ルヲ厭ヒ誦ムニ倦ム、亦理無キニアラザルナリ、是ヲ以テ、此書主トシテ、古今語學上ノ要件ノミヲ拔萃シ、科ヲ分チ序ヲ正シ、平易ノ譯文ヲ以テ簡短ニ論スル所以ノ者ハ、學生ヲシテ、其煩勞ナク、一讀シテ語學上ノ諸規則及定格ヲ自得セシメント欲スル也、故ニ、此書獨其体裁ヲ異ニス、學者咎ムル勿レ、

一古來語學ヲ講ズル者、働言又様言ノ上ニ、副ヘ蒙ラセ

国立国会図書館 29722

337326

タル言詞ノ名目ヲ論ジタル者ナシ、惟かざゝ抄ノ一書アルモ、句アリ言アリ又働言ヲモ加入シテ、甚錯雜ヲ極メタリ、今是ヲ副言トス、雖然此書ニ於ケル亦過誤ナキヲ保セズ、學者夫之ヲ正セ

一語辭即天爾遠波ノ如キ、古來其語意ヲ解釋セル書甚多シ、雖然未一定ノ確說ヲ見サルノミナラズ、其種類ヲ分別シタル者無シ、此書大別シテ十一類トス、學者就テ玩味ス可シ

一或人吾ニ謂ヘラク、我國ノ言辭、書冊ノ文書ニ用フル所ノ者ト、平生ノ談話ニ用フル所ノ者ト、大ニ相異セリ、故ニ殊更ニ國語ヲ學ブニ非ザレバ、歌文輙ク作ル可ラズ、子ガ所說ノ諸規則及定格ニ由ルキハ、言文ノ間ヲシテ愈相懸絕セシムルノ媒介トナラン、奚別ニ

計ル所無キヤト、余之ニ對ヘテ曰ク、否然ラズ、今日言文相懸絕シテ大ニ異ナル所以ノ者ハ、既ニ本書ニモ畧論セシ如ク、音便通略等ノ弊ニ原由シテ如斯隔絕セシ者ナレバ、往古ハ言文一途タリシヤ著シ、故ニ今之ヲ挽回スルニハ文書ハ更ナリ說話ノ間ニ於ケルモ、此諸則及定格ヲ心得テ用フル時ハ、自然受辭及係結ノ諸規格ニ相協ヒテ、言文一途ノ眞域ニ漸歩ス可キヤ理ノ當然ナラン、豈是ヲ言文一致ノ策ヲ否拒スル書トセンヤ、且夫說話ノ如キ、今之ヲ一時ニ變革セント欲スルハ、富岳ヲ腰ニシテ東海ニ游ブヨリ難シ、焉遽ニ執行スル「ヲ得ン、是吾言文一致ヲ欲シテ、此書ヲ著ス所以ナリ

著者識

語典

目錄

第一章　論音韻
第二章　論言語種類
第三章　論名言
第四章　論副言
第五章　論働言
第六章　論様言
第七章　論語辭
第八章　總講五類之言語
第九章　論言語換類
第十章　論句上諸規則
第十一章　論語上諸類
第十二章　論假字用格

語典

總論

山口直吉著

抑、言語ハ是意思ノ聲音、假字ハ是言語ノ寫眞ニシテ、言語假字ハ、以テ心裡ノ事情ヲ陳述表明スベキ者也、

此書ハ、我國固有ノ言語ヲ學ブ者ノ爲ニ、言語ノ種類及諸規則ヲ論スル者ニシテ、文章ヲ綴リ、歌ヲ詠シ、眞正ノ談話ヲ爲サントナラハ、必ズ、此書ニ說明セル諸規則ヲ心得スンバアル可ラズ、

今日ノ言語ニ、雅言アリ俗言アリテ、雅言ハ文章詠歌ニ用ヒ、俗言ハ普通ノ談話ニ用フル者、大ニ相違セリ、是畢竟、言文相懸絕セシ者ニシテ、上古ハ言文一途タリシ也、故ニ俗言ハ是雅言ノ變轉訛傳セシ者ニシテ、譬バ知ら

なくヲ知らない○御坐あるヲでさる○ゆかましかヲゆこまいか等ト云フカ如ク、總テ音便通畧等ノ弊ニヨリ、如此變轉訛傳セシト知ル可シ、

此書、專ラ言語上ノ事ノミヲ論ジテ、文法上ノ事ニ及バザルハ、他日文典ヲ著スヲ以テナリ、

第一章　論音韻

我國ノ言音ハ、正音五十個ト、濁音二十個ト、半濁音五個ト、都合七十五音ニテ、天下各國ノ言音、金石絲竹ノ聲音、移シ取ルベク、言ヒ盡ス可シ、雖然正音五十個ヲ除クノ外、濁音及半濁音ハ、我國固有ノ言音ニアラズ、故ニ變音トス、然バ我國ノ本音ハ五十個ニシテ、左ノ圖ノ如シ

喉音	ア	イ	ウ	エ	オ

五十音韻圖

牙音	齒音	舌音	舌音	唇音	唇音	喉音	舌音	喉音
カ ガ	サ ザ	タ ダ	ナ	ハ バ	マ	ヤ	ラ	ワ
キ ギ	シ ジ	チ ヂ	ニ	ヒ ビ	ミ	レ	リ	ヰ
ク グ	ス ズ	ツ ヅ	ヌ	フ ブ	ム	ユ	ル	ウ
ケ ゲ	セ ゼ	テ デ	ネ	ヘ ベ	メ	エ	レ	ヱ
コ ゴ	ソ ゾ	ト ド	ノ	ホ ボ	モ	ヨ	ロ	ヲ

右ニ出セル、五十音韻圖ハ、縦ニ五ツ、横ニ十ツ、相連リテ、五位十行、各縦横ニ音韻調和シテ相混亂スルヿ無シ、此中アイウエオヲ母音トシ、クスツヌフムユルウヲ父音トス、其餘ノ三十六音ハ皆子音ニテ、父母両音ヨリ成生スル所ノ音ナリ、譬バカハクアノ所生音、キハクイノ所生音、ケハクエノ所生音、コハクオノ所生音トス、餘行皆是ニ準シテ知ル可シ

右ニ説明セシ如ク、上古ニ在テハ、言音清朗分明ニシテ、相通ジ相混ズルヿ無リシヲ、中古ヨリ漢土ノ言音相雜レルト、世々ノ俗言トニツレテ、言音多ク音便通畧ノ弊ヲ生ジ、終ニ今日ノ如ク原語ヲモ尋ヲ難キ事トハナレルナリ、

蓋、中古以來、喉音三行ハ　用セシ者ニシテ、譬バ我ヲあ

れ、さやぐヲさわぐ、走るヲはしる等ノ如シ、是畢竟分別セザリシ者ナリ、既ニ古事記本文ノ假字用格ヲ見ルニ、ア行ノイトヤ行ノイトヲ通用シテ、即五十音圖中一字ヲ減シタリ、又空海ガ作リシト云フ、いろは歌ニ至リテハ、其他ニヤ行ノエト、ワ行ノウトヲ減ジテ、四十七字トセリ、如之、今日ニ至リテハ喉音三行相通用シテ、四十四字ニモ迨ビタリト云フ可シ、

んハ、元來我國ノ古言ニ無キ音ニシテ、ムノ音便ナリ、音便ノ事ハ第十一章ヲ見合ス可シ、

第二章　論言語種類

我國言語ノ種類ハ、古言アリ、今言アリ、雅言アリ、俗言アリテ、其數幾千萬ナルヲ知ラズ、故ニ其品類サヘ枚擧スルニ遑アラザレモ、是ヲ大別シテ五類トス、一ニ名言二

ニ副言三ニ働言四ニ様言五ニ語辭ナリ、

第三章　論名言

名言ハ、物ノ名目稱呼ニシテ、体言トモ云ヘリ、此名言ニ五種ノ別類アリ、

有形名言

有形名言ハ、都テ形有ル者ノ稱呼ナリ、

山川草木月花雨雪獸名鳥名魚名地名人名等ナリ

無形名言

無形名言ハ、都テ形無キ者ノ名目ナリ、

春夏秋冬夢話聲音等ナリ

働語名言

働語名言ハ、働言ヲ以テ名言トセルヲ云フ、

戀謠舞躍扇霞時雨等ナリ

集合名言

集合名言ハ、二個ノ名言集合シテ、一個ノ名言トナレルヲ云フ、

谷陰旅路春風舟守山住遠里玉琴横笛長刀等ナリ

替名言

替名言ハ、名言ニ代替スル言ヲ云フ、

我汝彼等ナリ

指名言

指名言ハ、時、所、疑等ニ付、種々アリ、又時トシテ副言トナルヿアリ

あのこのそここゝあれこれ誰いつ上下内外等ナリ

數名言

數名言ハ、物ヲ數フルニ用フル言ナリ

一、二、三、四、五、十、百、千、万等ナリ

第四章　論副言

副言ハ、一句ノ中ニ於テ、働言又ハ様言ニ副ヘ蒙ラセテ、多少ニ語意ヲ幇助調理スル者ナリ、此副言ハ種々錯雜ニシテ單ナルアリ復ナルアリ、或ハ名言アリ或ハ働言アリ或ハ様言アリテ、甚分別ニ苦メモ、是ヲ大別シテ九類トス、一ニ發起言二ニ接連言三ニ加重言四ニ隨從言五ニ疑問言六ニ指示言七ニ歎息言八ニ諾然言九ニ否拒言ナリ

發起言

發起言ハ、譬バ夫抑今いでやさて等ノ如キ、發起ノ言ヲ云フ、

夫歌の道ハ○抑人の心の相異なるは○今ハむかしある所に○いでや此世に生れてハ○さて此書は○むかし男有けり

接連言

接連言ハ、文句ト文句トヲ接續スル言ヲ云フ、譬バ此されど又故さるハばたかくて等ノ如シ、

さて此書にハ○されど我考ふるに○又云○故レ後世にても○さるは故有てなり○はた今夜も○かくて過行ほどよ○あるハ月にあるは花に

加重言

加重言ハ、其語意ヲ加重スル言ナリ、譬バもはらいといたくひたすらひたぶるいやいよ〳〵等ノ如シ、

もはら勉れど○いと戀〳〵くて○ひたすらに漕き

ゆけど○ひたふるに思ひ捨て○いや遠ざかる○
いよいよ見まくほゝき君哉

隨從言

隨從言ハ、其語意ヲ調理スル言也、譬ハ先よく常に直に實にあやにくいたづら未更にさすがに只すゞろ猶自皆必やがてなべてことに中々夢々まゝて等ノ如シ、此類甚多シ、

まづ人を走らせよ○よく文ハよえど○常に心得べき事になん○直に參るべゝ○實に然る事になん有ける○あやにくに降出れば○いたづらに寢てわかす人も有らん○未來すば○更にかくせよと○さすがに心にくゝて○只かた時もわすれず○すゞろに戀ゝくて○猶賴るゝ○おのづから散

るべき物を○花も皆ちり行きて○必出る月なれど○やがて鹿の弦聞ゆなり○あまぎる雪のなべてふれゝば○秋こそことに戀ゝけれ○中々に見ずば戀ひじを○ゆめ〳〵わすれ給ふな○まゝてをゝとこそ思へ

疑問言

疑問言ハ、譬バ誰いつかにいづれなどなに等ノ如シ、都に誰をおもひ出づらん○いつか來鳴ん○いかに久ゝき○いづれを梅とわきて折まゝ○など聲高き○花にあゝなに歸るらん

指示言

指示言ハ、譬バかの此そこゝいづちいづ方上下等ノ如シ、

かの方に漕ぎよせてよ○此花こそゝ○こゝぞ我
やど○いつち行けん○いづ方に鳴く○雲の上に
飛ぶ○下にうつらふ

歎息言

歎息言ハ、譬バあゝれあな等ノ如シ、

あゝれ此世ハ夢なれや○あなうらめ〳〵○あゝれ
たが住む宿なれや○あなか〳〵かま〳〵

諸然言

諸然言バ、譬バよ〳〵よ〳〵やむべむべも等ノ如シ、

よ〳〵散りぬとも○よ〳〵や霞にかくるとも○むべ
吹く風の凉〳〵かりけり○むべも我名の立にける
哉

否拒言

否拒言ハ、譬バいないな等ノ如シ

いな戀ひハせじ○いなやうらまじ○いな〳〵わ
れハ人の妻なり○いなや思ハじかひなき物を

第五章　論働言

働言ハ、又用言トモ稱シテ、都テ行爲形勢ヲ云ヒ顯ス言ナリ、譬バ道を行車にのる花を見る酒はある等ノ行の見るある是ナリ、此働言ハ總テ五十音圖ノ行位ニ順ヒ五種ニ活動シテ、將然言トナリ連用言トナリ終止言トナリ連体言トナリ已然言トナリテ、語意ノ異ナルノミナラズ受辭ヲモ異ニセリ、

扨、働言ノ活動ノ種類ヲ分別スルニ、正格アリ變格アリテ、正格ニ四類ト、變格ニ四類ノ別アリ

正格四類トハ、五十音圖ノ行位ニ順ジ活動スル者ニシ

テ、一ニ四段活言二ニ一段活言三ニ中二段活言四ニ下二段活言トス、此正格ノ働言甚多シ〇、變格四類トハ五十音圖ノ行位ニ於キ少シ順序ヲ誤リ活動スル者ニシテ、變格加行活言、變格佐行活言、變格奈行活言、變格良行活言ノ四類トス、此變格ノ働言甚少シ、

右ニ論シタル條件ヲ説明スルニ先ッテ、次ニ働言活動指掌圖ヲ表示ス可シ、

本格第一	四段活用言						
	加行	佐行	多行	波行	麻行	良行	
	咲	押	立	逢	住	降	
將然言	か	さ	た	は	ま	ら	ず で じ ん まし ば
連用言	き	し	ち	ひ	み	り	て つ、 ぬる たり けり き
終止言	く	す	つ	ふ	む	る	めり らん べし らし と かし
連体言	く	す	つ	ふ	む	る	かな まで に を より が
已然言	け	せ	て	へ	め	れ	ば ど

本格四段ノ活言ハ、右ノ如ク活動セリ、

本格第二	一段活用言						
	加行	奈行	波行	麻行	也行	和行	
	着	似	干	見	射	居	
將然言	き	に	ひ	み	い	ゐ	ず で ド ん まし ば
連用言	き	に	ひ	み	い	ゐ	て つ、 ぬる たり けり き
終止言	きる	にる	ひる	みる	いる	ゐる	あり らん べし らし と かし
連体言	きる	にる	ひる	みる	いる	ゐる	かな まで に を より が
已然言	きれ	にれ	ひれ	みれ	いれ	ゐれ	ば ど

本格一段活言ハ、右ノ如ク活動セリ、

本格第三

中二段活用言	将然言	連用言	終止言	連体言	已然言
加行 起	きず	きて	くめりちん	くるかあ	くれば
多行 落	ちで	ち、つぬたり	つべしらし	つるまで	つれ
波行 戀	ひん	ひ、ぬたり	ふとかし	ふるを	ふれ
麻行 恨	みまし	みけり	むゆ	むるより	むれ
也行 老	いば	いき	ゆ	ゆるが	ゆれど
良行 下	り	り	る	る丶	るれ

本格第四

下	将然言	連用言	終止言	連体言	已然言
阿行 得	えず	えて	うめり	うるかあ	うれ
加行 受	けず	けて	くめり	くるかあ	くれ

本格中二段活言ハ、右ノ如ク活動セリ

二段活用言	将然言	連用言	終止言	連体言	已然言
佐行 痩	せず	せつ、	すらん	するまで	すれど
多行 捨	てず	てぬたり	つべしらし	つるに	つれ
奈行 寢	ねん	ねぬたり	ぬとかし	ぬるを	ぬれ
波行 添	へまし	へけり	ふ	ふるより	ふれ
麻行 譽	めば	めき	むゆ	むるが	むれど
也行 消	いば	いき	ゆ	ゆるが	ゆれど
良行 枯	れ	れ	る	る丶	るれ
和行 植	ゑ	ゑ	う	うる	うれ

本格下二段活言ハ、右ノ如ク活動セリ、

變格第一	将然言	連用言	終止言	連体言	已然言
加行 來	こ（ずとしんましば）	き（てつ、ぬるたりけりき）	く（めりらんべーらーと）	くるがなまで（により）ごが	くれば

變格加行活言ハ、右ノ如ク活動セリ

變格第二	將然言	連用言	終止言	連体言	已然言
佐行	爲（御座）	せ（ず・じん・まーば）	し（てつ、ぬるたり・けりき）	す（めりらん・べーらー・と）	する（がなまで・により・をが）	すれ（ば・ど）

變格佐行活言ハ、右ノ如ク活動セリ、

變格第三	將然言	連用言	終止言	連体言	已然言
奈行	往（死）	な（ざで・じん・まーば）	に（てつ、ぬるたり・けりき）	ぬ（めりらん・べーらー・と）	ぬる（かなまで・にをより・が）	ぬれ（ば・ど）

變格奈行活言ハ、右ノ如ク活動セリ、

變格第四	將然言	連用言	終止言	連体言	已然言
良行	有（居）	ら（ず・じん・まーば）	り（てつ、ぬるたり・けりき）	り（と・らし）	る（めりらん・べーらー・かなまで・にをより・が）	れ（ば・ど）

變格良行活言ハ、右ノ如ク活運セリ、

働言活動指掌圖說明

正變格八種活動之辨

四段活言トハ、かきくけ又さしすせト第一ノ音ヨリ第四ノ音マデ正順ニ、譬ばさかさきさくさけ又おさおしおすおせト活動スルヲ云フ、此四段ニ活動スル働言甚多シ、而此段ノ活言ハ、加佐多波麻良ノ六行ニノミ有リテ、阿奈也和ノ四行ニハ無シ、

一段活言トハ、ききるきれ又にるにれト、第二ノ音一段ノミニテ、譬バ着着る着れ又似似る似れト活動スル ヲ云フ、此るれハ語辭ノ添ハリタル者ニシテ、（語辭ノ事ハ第七章ヲ見合スベシ）其行ノ音ニハ關係セサルナリ、下皆同ジ、此一段ニ活動スル働言甚少シ、而此段ノ活言ハ加奈波麻也和ノ六行

ニノミ有リテ、阿佐多良ノ四行ニハ無シ、
中二段活言トハ、きくくるくれ又ちつつるつれト、第二
ノ音ト第三ノ音ニテ、譬バおきおくおくるおくれ又お
ちおつおつるおつれト活動スルヲ云フ、此中二段ニ活
動スル働言モ又多カラズ、而此段ノ活言ハ加多波麻也
良ノ六行ニノミ有リテ、阿佐奈和ノ四行ニハ無シ、
下二段活言トハ、えううるうれ又けくくるくれト第四
ノ音ト第三ノ音ニテ、譬バ得ううるうれ又受け受く受
くる受くれト活動スルヲ云フ、此下二段ニ活動スル働
言ハ甚多クシテ、而此段ノ活言ハ十行トモニ有リ、
以上四類ヲ正格活用言ト云フ、
加行活言トハ、こきくくるくれト、加行ニ於テ順序ヲ失
シ、譬バ來ヲ、こきくくるくれト云フガ如シ、此行ノ活言

ハ來ト云フ働言ヨリ他ニ無シ、
佐行活言トハ、せしすするすれト、佐行ニ於テ順序ヲ失
シ、譬バ爲ヲせしすするすれ又御坐ヲればせれはしれ
はすれはするれはすれト云フガ如シ、此行ノ活言ハ、爲
御坐ト云フ働言ヨリ他ニ無シ、
奈行活言トハ、なにぬるぬれト、奈行ニ於テ正格トハ
相違シ、上三段活言トモ云フ可ク、譬バ往ヲいないに
ぬいぬるいぬれ又死ヲしなにしぬしぬるしぬれト
云フガ如シ、此行活言ハ往死ノ働言ヨリ他ニ無シ、
良行活言トハ、らりるれト、良行ニ於キ正格四段活言ト
相似タレモ、五轉等位及受辭ニ少異アリ、圖ヲ見テ能ク
玩味スベシ、此行ノ活言ハ、有居ノ働言ヨリ他ニ無シ、
以上四類ヲ變格活用言ト云フ

五轉活動之辨

五轉活動トハ、一個ノ働言ノ、五十音圖ノ行位ニ順ジテ、將然言トナリ、連用言トナリ、乃至已然言トナルヲ云フ、譬バ、咲ナさかんト云ヘハ、將然言ニテ將來ノ事ヲ云フ言トナリ、さきト云ヘバ、連用言ニテ、さき句ふトカ、さき満るトカ云ヒテ、用言ヘ連續スル言トナリ、さくト云ヘバ、終止言ニテ落着シタル言トナリ、さくト云ヘバ、終止言ト相同ジケレモ連体言トナシテ、さく花トカ、さく櫻花トカ云フ時ハ、落着セズシテ体言ヘ連續スル言トナリ、さけト云ヘバ已然言ニテ既ニ然リシ事ヲ云フ言トナリテ、如此五種ニ活動スルガ如シ、右ノ正變格八類活言、何レモ皆五種ニ活動スレバ、圖ヲ見テ玩味ス可シ、

受辭之辨

辭トハ、則語辭ニシテ、諸働言ノ五種ニ活動スルニ付キ、受辭ヲ異ニセルヲ云フ、尚詳ハシキハ第十章ヲ見合ス可シ、右圖ニ示シタルハ畢竟大畧ノミニシテ、譬バ將然言ヨリハ、ずでじんまし〳〵ば連用言ヨリハてつゝぬるたりけりき終止言ヨリハめりらんべし〳〵らし〳〵かし〳〵と、連体言ヨリハかなまでにをよりお、已然言ヨリハばどト、受クルヲ云フナリ、然レモ變格巳行活言ノミハ稍異ナル所アレバ、圖ヲ見テ知ル可也、

右ニ働言ノ諸規則ヲ説明シタレバ、左ニ掲示スル句中ニ有ル、働言ノ種類ノ所属、及五轉ノ等位ヲ、講明ス可シ、

鶯の鳴く○折てかざゝん○雪ハふれども○我をまつら〳〵○袖に匂ひて○衣ハきん○茶を煎る○弓をゆつゝ○下ゑ朽ちなん○岸ゑれふる○汝ゑあり〳〵

○夜ハあけん○人ヨまかせて○色ヨいづ○けふぞ尋ぬる○花ヨくらべば○宿と定むる○門ハさかゆ○關すゑて○秋ハきぬ○かくせば○いざゐなん○酒ありと○床中ヨをる

論命令言

働言ノ中、命令言ハ、正格第一四段活言ノ、已然言ヲ其儘ニ、さけれせたてあへすめふれト云ヒ居ヱテ、命令言トス

論働言自他活動差別

働言ノ中、自他活動ノ差別ヲ心得ルハ、最肝要ノ事ニシテ其差別ニ三類アリ、一ハ自爲、二ハ使令、三ハ被役ナリ、自爲ハ各種本格ノ將然言ヨリ佐行四段ニ活用スル言ヲ云ヒ、使令ハ佐行下二段ニ活用スル言ヲ云ヒ、被役ハ良行下二段ニ活用スル言ヲ云フ、譬バ咲ヲ咲さん咲〜

咲す咲せト云フ時ハ、自爲ニテ自ラ爲ス言トナリ、咲せん咲す咲する咲すれト云フ時ハ、使令ニテ他ヲシテ爲シムル言トナリ、咲れ咲る咲る〜咲るれト云フ時ハ、被役ニテ他ヨリ爲ル〜言トナルガ如シ、然レモ正變格八類ニ於テハ三類ニ分レテ活用スルアリテ、一定ニ三類ニ限リテ分活セサレバ、左ノ圖ヲ見テ玩味ス可シ、

働言自他活動差別指掌圖

	將然言	連用言	終止言	連体言	已然言	
四段活言	さ	し	す	す	せ	自爲
咲押立逢住降	せ	せ	す	する	すれ	使令
	れ	れ	る	るゝ	るれ	被役

一段活言	中二段活言	下二段活言	加行活言	佐行活言
着似干見射居	起落戀恨老下	得受奪捨寢添惜消枯植	來	爲
させられ	させられ	させられ	させられ	させられ
させられ	させられ	させられ	させられ	させられ
さすられる	さすられ	さすられる	さすられる	さすられる
さするらる、	さするられる、	さするらる、	さするらる、	さするられる、
さすれらる	さすれられる	さすれらる	さすれられる	さすれられる
使令被役	使令被役	使令被役	使令被役	使令被役

奈行活言	良行活言
往死	有居
させられ	させられ
しせられ	しせられ
すする	すする
するる、	するる、
せすれられる	せすれられる
自爲使令被役	自爲使令被役

論尊敬言

働言ノ中、尊敬言ハ給ふ侍る候ふ召す等ノ、固有言アレヒ、右ニ表示シタル、自他活動指掌圖ノ中ニアル、自爲働言、使令働言、被役働言ヲ、其儘反用シテ、高貴ナル人ノ行爲擧動ヲ尊敬シテ云ヒ顯ス言トセリ、譬バあゆませ給ふ居させ給ふト云ヘバ、給ふト云フ尊敬言ノ、語尾ニアルヲ以テ論無ケレヒ、茶にあかしけん誰を戀さずらしト云ヘバ、語尾ニ給ふノ尊敬言無クヒ尊敬言トナルガ

如シ

第六章　論様言

様言ハ、又形容言トモ稱シテ、物ノ有様性質ヲ云ヒ顯ス言ナリ、譬ハ早く行よく走る新しき魚等ノ早く、よく、新しき是様言ナリ、此様言モ、働言ノ如ク五種ニ活動シテ、將然言トナリ、連用言トナリ、乃至已然言トナレモ、五十音圖ノ行位ニ順ジテハ活動セズ、一定ノ規格ニヨレリ、又受辭モ大ニ異レリ、今様言指掌圖ヲ表示セバ、左ノ如シ

様言指掌圖	將然言	連用言	終止言	連体言	已然言
第一善く	く	く	し	き（かなまでをにより）	けれ（ど）
第二悲しく	く（ど）	く（て）	し（かし）	しき	しけれ（ど）

様言ノ活動ハ、右圖ノ如ク、くしきけれト、しくしくしきしけれトノ、二類ニヨレリ、五轉活動ノ如キハ、譬バ長ト云フ言ノ、ながくト云ヘバ將然言ニテ、將來ノ事ヲ云フ言トナリ、長く眠るトカ、長く走るトカ云ヘバ連用言トナリ、長しト言ヘバ、終止言ニテ落着ノ言トナリ、長き帶トカ、長き道トカ云ヘバ、連体言トナリ、長けれト云ヘバ、已然言ニテ既ニ然リシ事ヲ云フ言トナルナリ、

右ニ、様言ノ諸規則ヲ説明シタレバ、左ニ掲示スル句中ニ有ル、様言ノ種類ノ所屬、及ビ五轉ノ等位ヲ、講明スベシ、

川風さむし○香さへなつかし○あつき夏の日○今も戀しき○めづらしき文○嬉しかりけり○さてもくはしき○吹く風の凉しくバ○小川の水の

第七章　論語辭

語辭ハ、又天爾遠波トモ稱シテ、体言、副言、用言、樣言ナシテ、種々ニ活動セシムル者ナリ、譬バ月や出つらん、花の下ふゝ。雪ぞふるらゝ等ノ、句中ニアルやらんのぞらゝ即是ナリ、如此種々ノ言語ヲ組織シテ、文句ヲ制成シ、以テ我人等ノ思想ヲ相述ベ、意志ヲ相告ゲテ、應對談話ヲナスヿヲ得セシムルモノハ、全ク此語辭ノ活用ニヨレバナリ、

扨、此語辭ニ活動スル者アリ、活動セザル者アリ、又切ルヽアリ、續クアリ、又單ナルアリ、復ナルアリ、又現在アリ、過去アリ、未來アリ、又直說的ノ者アリ、曲說的ノ者等アリテ、種々ナレモ、是ヲ大別シテ十一類トス歎息辭、疑問辭、求望辭、命令辭、禁止辭、推量辭、時刻辭、形容辭、助辭、接續辭、副辭、ナリ今其種類ニ順ジテ、一々引証ノ文句ヲ示シテ、語意及ビ諸定格ヲ講明セント欲スレモ、繁大錯雜ニ渉ルヲ恐レ、大畧ノミヲ掲示ス、

歎息辭

歎息辭ハ、見聞ニ付キ、喜怒哀樂ノ情ニ感ジ、發聲スル所ノ語辭ヲ云フ、其類語左ノ如シ、

やゝ　よゝ　なゝ　もゝ　かな

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ其語意ヲ講明スベシ、

人を猶字らみつべゝや○あな字らめゝの人の心や

○かくるゝまでにかへり見ゝはや○秋風よ○心ぼそさよ○舟出かなゝ○來て見べき人もあらじなゝ

○秋ハさびゝも○袂すゞゝも○駒も來ぬかな○覺

東なくも呼子鳥哉〇ゑゐゐなき音をも鳴く哉

疑問辭

疑問辭ハ、疑ハシキ事ヲ問ヒ尋ヌル語辭ヲ云フ、其類語左ノ如シ、

か　や

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

春雨のふるハ涙か〇あるかなきか〇山人と人も見るかに〇ありやなしやと〇花と知らずや〇こんやこじやの定めなけきば

求望辭

求望辭ハ、希求願望スル語辭ヲ云フ、其類語左ノ如シ、

なん　ばや　しが　もがな

左ニ掲示シタル句中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

花にわかなん〇若菜つまなん〇關もすゑなん〇聲をきかばや〇人に見せばや〇告げばやな〇そゑと もゐをね旅寐してしが〇あな戀〜今も見てしが〇あふよしも哉〇時も哉

命令辭

命令辭ハ、物ニ向テ命令或指揮スル語辭ヲ云フ、其類語左ノ如シ、

よ　ね

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

枝ながら見よ〇出て見よ〇せよ〇かくしてよ〇れきよ〇居よ〇ゆきね〇きゝね〇吹きそてね〇たゝよ忘きね

禁止辭

禁止辭ハ、否拒スル語辭ナリ、其類語左ノ如シ、

な　何そ　な

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

けふハな燒きそ○聲なきかせそ○なうらみそ○わらがふな○色にいづな○なげくなよ

推量辭

推量辭ハ、事物ニ付キ過去將來ノ推察度量ヲナス語辭也、其類語左ノ如シ、

らん　らめ　けん　けめ　なん　なめ　てん　てめ　まし　ましか　らし

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

思ふらん○風やとくらん○花やちるらん○れもひ出づらめ○色にうつろふらめど○誰かハそじめけん○知らずや有りけん○かたみとこそハ止めけめ○散りけめ○いざ櫻我もちりなん○中やたにななん○いづ方にかくれなん○春毎に花のさかりハありなめど○淺くなりなめ○尋ねもしてん○よく見てん○誰めてん○けふこそ櫻折らばをりてめ○のどけからまし○しらずぞあらまし○けふこそ見ましか○行ましか○水まさるらし○夜ハふけぬらし○時雨ふるらし○人こそあるらし

時刻辭

時刻辭ハ、其時刻ヲ云ヒ顯ス語辭ニシテ、三類ノ別アリ、即現在、過去、未來ナリ、其類語左ノ如シ、

現在　りる（有ノ活用言ナリ）れ　なり（也字ノ意ナリ）なるなれ

過去　き　しし　がてき　にき　つぬ　たり　せり　けり

未來ずぬねじざりんめ

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

現在霧さなびゆり○かすめり○しづめり○ならへる○名ゑ○ふそさてき○人ハいふなり○花の衣ゑなりぬなり○今ぞ鳴なる○きゑゆなる○今ハあだなき過去見ざりき○わりき○れもひき○きのふ見しく○さがぬぎかけし○きのふこそ早苗とりしか○れもひそ免しか○をぢてき○行てき○れもひそめてし○鳴きふるしてし○けふもくきゑき○たえゑき○ゑりゑき○ゑきゑ○ゑさねつ○なお免つ○くらしつ○久しくなりぬ○雨ふりぬ○身ハれいぬ○ゆきたり○あすそたり○亂きさり○家造りせり○冬籠せり○紅葉せり○春ハきゑけり○花ハさきけり○雪ハ

ふりけり○あやまさきけり未來見し事ハあらず○神代もきゑず○聞えず○あともやゞめぬ○きえぬ○色こそ見えね○えこそ渡ら弘○さゑじ○出じ○見じ○聞ざりき○見ざりし○行ざりけり○飽ん見ん○行免

形容辭

形容辭ハ、形勢容貌ヲ云ヒ顯ス語辭ナリ、其類語左ノ如シ、

そさげらべきべらべみなく

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

茂そ○寒そ○わつさ○ゝなしさ○れもしろげ○うきしげ○そこら○安らに○さかしらに○とゞむべきもの○やどりハすべし○をしむべらなり○かく

すべらなり○ちりぬべみ○人〳〵りぬべみ○月いり
ぬべみ○聞かなくに○ふらなくに

助　辭

助辭ハ、語氣ヲ助ケ、或ハ强カラシムル語辭ナリ、其類語左ノ如シ、

を　〳〵

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

見てを渡らん○ぬきてを行ん○知らずとをいはん
○馴に〳〵妻〳〵あきば○種〳〵あれば○月のひかり〳〵
あかけきば

接續辭

接續辭ハ、語ト語トヲ接續スル、語辭ニシテ、譬ば花の咲く君と我と、月や出る等ノ、句中ニアルのとや是ナリ、此

接續辭ニ單ナルアリ、復ナルアリ、或ハ强キアリ或ハ弱キアリテ、種々ナレモ、其類語左ノ如シ、

てでにをばばもとどものがぞなんやかこそへ
つゝ

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意を講明スベシ、

見て行ん○折てかざゝん○ちかくてぞ○行である
○知らでゐる○花に鳴く鶯○水にすむ蛙○酒をの
む○君をまつ○杯をとる○紅葉ハちる○けふはく
れぬ○夜はふけき○くもらばふらん○かくるれば
見えぬ○身もれいて○我もゆゝん○人も我も○雪
とすみと○ゝたらんとれもふ○山人と見る○とへ
どゝさきど○春立てど○冬なきども○漕げども
も○舟のたえきて○山のあなさ○海の底○見るも

うちに○きゐるがを〳〵○たらでぞかへる○我ぞゞ
なゝき○おきぞあれぞ○母なん藤原成ける○とな
ん追ひつきて○こぞとやいたん○字らみやすらん
○今やなくらん○ろれゝあらぬゝ○星ゝ螢ゝ○誰
ゝ知る○身こそつらけれ○人おろゝらね○けうと
ろ來たれ○北へ行○國へあへる○おくゝつゝあら
ん○わびつゝも寐ん

副辭

副辭ハ、以上説明シタル語辭トハ、稍別類ニシテ、一個ノ言語ナレ𪜈、其活用ハ諸語辭ト等シキヲ以テ、副辭ト名ヅク譬バ枝ながら見よ○散るだにあるを○花より外よ○淋しきまゝよ等ノながらだにより、即是ナリ、其類語左ノ如シ、

337326

ながらがてのみだにさへすらばありあゝまでど
よりあらてふものまゝまを

左ニ掲示シタル文句ノ中ニ於テ、其語意ヲ講明スベシ、

いひながら○見ぬがら行○すぎがてにする○いね
がてふする○ひとりのみ聞く○ねのみ鳴くらん○
聲のみぞする○雪だにきえなくふ○ちる間をだふ
を○香さへなつかゝ○夜さへ見よとて○聲ばあり
きこえて○折をるばありぞ○見よゝゝ○殘るらん
かゝ○かくあらんかゝ○なくより外に○鳥より先
に○あゝたより○木ごとに咲ける○ちる花ごとに
○吹くからに○をゝむからに○心からに○笠にぬ
ふてふ○夢てふものを○頼まぬものゝ○行くべき
ものを○あるべきものを○淋しきまゝにれきゐつ

、○垣根のまゝにさける卯の花○見まくほゝき○
きかまく

第八章　總講五類之言語

以上ニ言語ノ種類ハ、即名言副言働言様言語辭ノ五大類ナリト論シ、又其類毎ニ各種アルヿヲ説明シタリ、故ニ、今左ニ數首ノ和歌ヲ掲示シテ、總テ五類ノ言語ヲ講明セバ、大ニ便益アル事ヲ信ズ、

左ノ歌ヲ講ズルニ付キ、一言云ヒ置クベキ事アリ、句ト章トノ分別ニシテ、一章ノ全体上ヨリ見ル時ハ、文法アリ句法アリテ、或一句乍ラ副言トナリ、或ハ名言ノ副言トナル等ノ事アルヲ以テ、文句上ニ就テ、平易ニ説去ラントス、

さみだれに物れもひをれば郭公夜ふかく鳴ていづち行らん

名言　さみだれ（有形名言）郭公（同上）夜（無形名言）
副言　いづち（指示言）
働言　れもひ（正格四段活言ノ連用言）をれ（變格良行活言ノ已然言）なき（正格四段活言ノ連用言）ゆく（正格四段活言ノ終止言）
様言　ふかく（第一類連用言）
語辭　に（接續辭）物（副辭）ば（接續辭）て（同上）らん（推量辭）

神無月時雨もいまだふらなくにかねてうつろふ神なひの森

名言　神無月（無形名言）時雨（働語名言）神なひの森（有形名言）
副言　いまだ（隨從言）かねて（同上）
働言　ふら（正格四段活言ノ將然言）うつろふ（正格四段活言ノ連体言）
語辭　も（接續辭）なく（形容辭）に（接續辭）

老ぬればさらぬ別も有といへばいよ〳〵見まくほゝき君哉

名言　別（働語名言）君（替名言）

副言 さらぬ（隨從言）いよ〳〵（加重言）
働言 老（正格中二段活言ノ連用言）有（變格良行活言ノ終止言）い（正格四段活言ノ己然言）見（正格一段活言ノ將然言）
樣言 ほゝき（第二類連体言）
語辭 ぬれ（過去辭）ば（接續辭）もとば（同上）まく（未來辭）かな（歎息辭）

山里は秋こそことにわびしけれ鹿の鳴音に目をさましつゝ

名言 山里（集合名言）秋（無形名言）鹿（有形名言）ね（無形名言）目（有形名言）
副言 ことに（加重言）
働言 鳴（正格四段活言ノ連体言）さまし（同上ノ連用言即自爲言）
語辭 つゝ（接續辭）けれ（過去辭）
樣言 わびし（第二類ノ終止言）

あひ見ねば戀ころまされみなせ川何にふりめてれもひろめけん

名言 戀（働語名言）みなせ川（有形名言）

副言 何に（疑問言）
働言 あひ（正格四段活言ノ連用言）見（正格一段活言ノ將然言）まされ（正格四段活言ノ已然言即被役言）ふりめ（下二段活言ノ連用言）れもひ（四段活言ノ連用言）ろめ（下二段活言ノ連用言）
語辭 ね（未來辭）ばころて（接續辭）けん（推量辭）

夏の夜をまだをひながら明ぬるを雲のいづこゝ月やどるらん

名言 夏の夜（集合名言）よひ（無形名言）雲（有形名言）月（同上）
副言 まだ（隨從言）いづこ（指示言）
働言 明（下二段活言ノ連用言）やどる（四段活言ノ終止言）
語辭 ゝをのに（接續辭）なお（副辭）ら（推量辭）ぬる（過去辭）らん（推量辭）

秋萩の花をば雨にぬらせども君をばまゝてをゝとこゝろ思へ

名言 秋萩（集合名言）花（有形名言）雨（同上）君（替名言）
副言 まゝて（加重言）
働言 ぬらせ（四段活言ノ已然言即自爲言）思へ（同上）

樣言を〜（第二類ノ終止言）
語辭をばにどもどころ（接續辭）

第九章　論言語換類

言語ハ時トシテ類ヲ換フル事アリ、故ニ此句中ニアル時ハ此類トシ、彼句中ニアル時ハ彼類トセザルヲ得ズ、其例左ノ如シ、

散る紅葉哉

紅葉ハ此句中ニ在テハ名言ナリ

青葉の山も紅葉せり

紅葉ハ此句中ニ在テハ活言トナレリ

君臣の道をだまさで

君臣ハ此句中ニ在テハ名言ナリ

君君たらずも臣臣たらずばあらじ

君臣ハ此句中ニ在テハ活言トナレリ

あはを罪人の身ころ悲しけを

罪ハ此句中ニ在テハ名言ナリ

神ハあしき人を罪す

罪ハ此句中ニ在テハ活言トナレリ

右ハ、名言ノ活動セル者ニシテ、此他冬籠せり庵りす等、皆此例ナリ、

只頼光たとへ僞りなりとも

たとへ此句中ニ在テハ副言ナリ

君の心ゑたとふべし

たとふ此句中ニ在テハ働言トナレリ

ぬれつゝぞ志ひて折つる梅の花

志ひて此句中ニ在テハ副言ナリ

酒をしひて酔へしむ

しひて此句中ニ在テハ働言トナレリ

右ハ、副言ト働言ト類ヲ換フル者ニシテ、此類甚タ少シ、

海の底へ深し

深し此句中ニ在テハ様言ナリ

何にふかめて思ひうめけん

ふかめ此句中ニ在テハ働言トナレリ

ぜにゝともしくて

ともしく此句中ニ在テハ様言ナリ

いまだにもともしむべしや

ともしむ此句中ニ在テハ働言トナレリ

我ふる里の戀しくて

戀しく此句中ニ在テハ様言ナリ

月花をころ戀ふれ

戀ふれ此句中ニ在テハ働言トナレリ

色くろし

くろし此句中ニ在テハ様言ナリ

眞かきくろみて

くろみ此句中ニ在テハ働言トナレリ

右ハ、働言ト働言ト類ヲ換フル者ニシテ、此類稀ニハ見ユ、

第十章　論句上諸規則

句トハ、若干ノ言語ヲ組織シテ一句ヲ成スヲ云フ、句ノ成立ニ短句アリ長句アリ、又直説ノ者アリ曲説ノ者アリテ、種々ノ規則アレ𪜈、此句ヲ組織スルニ當リテ、必心得ベキ事三ケ條アリ、即受辭、及係辭、結束言辭ナリ、

論受辭

受辭トハ、諸働言ヨリ受クル所ノ語辭ヲ云フ、既第五章働言指掌圖ニ、將然言ヨリハ未だじんまゝば、連用言ヨリハてつゝぬるたゞけりき云々ト、表示シタル者是ナリ、然レ𪜈、其ハ畢竟五轉活動ノ等位ヲ定ムル迄ニ、大畧ヲ擧ケタル者ニシテ、今詳細ニ説明スル時ハ、左ノ圖ノ如シ、

抑、受辭ハ一定ノ規則アリテ、將然言ヨリハ何々、連用言ヨリハ何々ト受ク可キヲ、誤リ用フルヿ多シ、譬バ得らゝト云フベキヲ得るらまゝト云ヒ、合すとてト云フ可キヲ合するとてト云ヒ、かくすべゝト云フベキヲかくするべゝト云フガ如シ、能ク注意セズンバアル可ラズ

此受辭ニ、活動スル者アリ活動セザル者アリテ、活動スル者ハ働言ノ五轉ニ活動スル如ク、將然言トナリ連用言トナリ乃至已然言トナル、又切ル、アリ續クアリ、又現在アリ過去アリ未來アリテ、種々ナリ、尚詳ハシキハ圖ヲ見テ知ル可シ

將然		
着キ	咲サ	
活	有	
	ず	將然言
ん	ず	連用言
ん	ず	終止言
ん	然	連体言
め	ね	已然言
同	未來辭	

連用言

起	着	咲
活	有	

將然言	て な たら け てけ
連用言	て に たり
終止言	つ ぬ たり き てき
連体言	つる ぬる たる 〜 て〜
已然言	つれ ぬれ たれ 〜か て〜か
	過去辭 同 同 同 同

受辭圖

來	得	起
無活受辭	受辭	

で‖接續辭	ませ 〜め ざら	まー 〜む ざり	まー 〜むる ざる	まー 〜むれ ざれ	推量辭 未來辭 同
ば‖同上	まく 〜め ざり				
じ‖未來辭					
なく‖副辭					
なん‖求望辭					

將然言ヨリハ、右圖ノ如ク受クルナリ、

受辭圖

來	爲	往	有
受辭			無活受辭

にけ			に‖ は‖ も‖ ぞ‖ や‖ か‖ こそ‖ つ〜‖以上接續辭 け‖命令辭 だに‖ ながら‖ がて‖ ら〜‖推量辭 げ‖形容辭 〜が‖求望辭 のみ‖以上副辭
けら	てん なん けん けり	にき てん なん けん けり	に〜 てん なん けん ける	に〜か てめ なめ けめ けれ	同 推量辭 同上 同 過去辭

終止

起	着	咲
活	有	

將然言	なら めら	
連用言	なり めり	
終止言	なり めり	
連体言	なる める	
已然言	なれ めれ	
	現在辭 推量辭	

連用言ヨリハ、右圖ノ如ク受クルナリ、

終止言ヨリハ、右圖ノ如ク受クルナリ、

言受辭圖			
得サ	來ク	爲ス	有アル
受辭		無活受辭	
べく まじ	らん べく まじく	ども 接續辭 や よ な 歎息辭 や 疑問辭 な 禁止辭 べみ べら ら 推量辭 ら 形容辭 べかり かし 副辭	
	べ〜 まじ		
	らん べき まじき		
	べけれ まじけれ		
	同		形容辭 同

連体言受辭圖

咲サ	着キ	起オク	得ル	來ル	爲ル	有アル
有活受辭			無活受辭			
將然言	連用言	終止言	連体言	已然言		
なり	なり	なり	なる	なれ		
					にあり言形容辭	
に を も は ぞ なん や か 以上接續辭 かな かも 歎息辭						
より ばかり だに さへ すらごと からのみ						
なむ ら ま 以上副辭 か 疑問辭						

連体言ヨリハ、右圖ノ如ク受クルナリ、

已然言受辭圖				
咲サ	着キ	起オク	得ル	有アル
無活受辭				
ば ど ども 以上接續辭 や 歎息辭 や 疑問辭				

已然言ヨリハ、右圖ノ如ク受クルナリ、

論係辭

係辭トハ、一句ノ中間ニ在テ結束言辭ト本末相關係スル語辭ヲ云フ、譬バ花ハちる○月やれらん○雪こそふれ等ノ、句中ニアルハやこそ即是ナリ、此係辭ハ皆語辭中ノ接續辭ニシテ、就中强力ノ者ノミナリ、其類別左ノ如シ、

右（は も）

終止言及語辭ヘ係ル

中(ぞなんやか)
左(こそ)

連体言及語辭ヘ係ル
已然言及語辭ヘ係ル

右ニ表示セル如ク、そも係辭トナル時ハ、終止言ノ言辭ニテ結束シ、ぞなんやか係辭トナル時ハ、連体言ノ言辭ニテ結束シ、こそ係辭トナル時ハ、已然言ノ言辭ニテ結束スト知ル可シ、又句中ニ於テ、右三類ノ係辭一ツモ無キ時ハ、そもノ類ニ從ヒ、終止言ノ言辭ニテ結束シ、又右三類共ニ係辭トナル時ハ、其主ナル者ニ從ヒ、又右三類ノ係辭ヲ置ズトモ、疑問ノ句ハ、連体言ノ言辭ニテ結束スベキ定格ナリ、尚詳ハシキハ、次章ト見合スベシ、

論結束言辭

結束言辭トハ、前章ニ論ズル係辭ニヨリテ設ケタル名目ニシテ、即一句ノ結束トナル言辭ヲ云フ、譬バ花ハち

る○月や出らん○雪こそふりけれ等ノ句中ニ在ルちる言らん語辭けれ同上是ナリ、如此係辭ト結束言辭ト、相關係シテ一句ノ全体完全整備スル者ナレバ、能ク注意セズンバアルベカラズ、

又茲變格ノ結束言辭アリ、即ぞやかなんノ係辭ヲ置ズシテぬるつるなるけるせるるゝ等ノ連体言ノ言辭ニテ結束セルヲ云フ、譬バ

ふる雪のみの〳〵ろ衣打きつゝ春きにけりとれどろかれぬる
湊いづる海人のを舟のいかり縄くる〳〵き物と戀を知りぬる
我やどに花をのこさず移植て鹿のねきかぬ野邊となる〳〵つる
あひにあひて物思ふ頃の我袖にやどる月さへぬるゝ顔なる
はじめより逢ふハ別れとときゝながら曉知らで人をこひける
あふことや涙の玉の緒なるらんたゆばし〳〵絶れば落てみだるゝ

右ノ類甚多シ、雖然哥ニノミ稀ニ見エテ文章ニハ見當ラズ、尚此他二三種ノ變格アレモ、正格ニアラサレバ之ヲ論セズ、

其詳細ハ、左ノ圖ヲ見テ知ル可シ

係受本末關係指掌圖

	係辭
終止言	は も
連体言	ぞ なん や か
已然言	こそ
	係辭ニ付キ心得ベキ「左ノ如シ 一句ノ中ニテ三類ノ係辭ヲ置ザル時ハはもノ類ニ從ヒ終止言ニテ結束スト知ル可シ ぞなんやかノ係辭ヲ置ザルモ疑問ノ句ハ多ク連体言ニテ結束スト知ル可シ

働言

四段活言	一段活言
く す つ ふ む る	き る れ る ひ る み る い る る
く す つ ふ む る	き る れ る ひ る み る い る る
け せ て へ め れ	き れ れ れ ひ れ み れ い れ る れ

鶯の鳴なる聲ハあさな〳〵きく
月さへ草のいほりをぞさす
風をまつごと君をこそまて
天てる神の光りさゝそふ
たなばたをなにかうらやむ
あゐ見ねば戀こそまされ

夜の衣をかへ〳〵てぞきる
心のまゝにわが物と見る
大方にこそあわれともみれ

中二段活言	下二段活
く つ ふ む ゆ る	う く す つ ぬ ふ む ゆ
く る る る る ゝ	う る る る る る る る る
く れ れ れ れ れ れ	う れ れ れ れ れ れ れ れ

山めぐり時雨やすくる
わすれ草こそ岸におふれ
鳴く時鳥たれをうらむる

立田川にぞぬさハたむくる
つゝなをくへどいや痩にやす
涙のみおそ下に流るれ

言	變格活言	自爲働言	使令働言	被役働言
る う	く す ぬ り	す	す さす	る らる
る ゝ う る	く る す る ぬ る る	す	す る さする	る ゝ らる ゝ
る れ う れ	く れ す れ ぬ れ れ	せ	す れ さす れ	る れ らる れ

月のいでゝこそくれ
吹きくる風ハ花の香ぞする
鳥の子ハまた雛ながら立ていぬ
いつかハ雪のきゆる時ある

など二道に思ひなやまず
色にゝ今ぞくらする
雨かと窓をあけて見さする
月夜にハこぬ人またる
誰とくりてか戀らるゝ

様言	形容活言	活動語辭	將然言受辭	連
	～		ず ん ま～ む ざり	つ ぬ
	き ～き		ぬ ん ま～ む る ざる	つる ぬる
	けれ ～けれ		ね め ま～か む れ ざれ	つれ ぬれ
	心こそうたてにくけれ あまりてなどか人の戀～き		か へるさまにハ道も～られず 戀～くば見ても～のばん あすハ雪とぞふりなま～ 咲く花にこそあか～むれ 本つ心ぞわすれざる ぬれつゝぞ～ひて折つる 散かふ花に道ハまどひぬ	

用言辭	終止言受辭
たり き てき にき てん なん けん けり	なり めり らん べ～ まじ
たる ～ て～ に～ てん なん けん ける	なる める らん べき まじき
たれ ～か て～か に～か てめ なめ けめ けれ	なれ めれ らめ べけれ まじけれ
誰かハ春をうらみはてたる 昨日こそ早苗とり～か 立出て君を思ひそめてき など九重に咲ず成に～ みよ～野の岩の陰道ふみなら～てん いざこゝに我世ハへなん 逢までの形見とこそハ止めけめ 年にまれなる人も待けり 故郷さむく成まさるなり 立田川紅葉亂れて流るめり 春たつけふの風やとくらん 此里にたひ寐～ぬべ～ この世には又も見るまじ	

連体言同	已然言同	無活語辭	
なり	り	じ らし かな	
ある	る	○ らし	
なれ	れ	○ らし	

流るゝ水のかへりこぬなり

あだなりと名にこそ立れ

竹近く夜床寒はせじ

ぬきみだる人こそあるらし

けさ鳴聲のめづらしき哉

右ニ係結本末指掌圖ヲ表示シテ、句中ニ在テハ係結必相關係セズンバ、一句ノ体面完全整備セザル旨ヲ說明シタリ、然レバ左ニ掲示シタル句中ニ於テ、係結諸辭ヲ講明スベシ、

住む館より船よのるべき所へわたる」

これぞたゞしきやうにて馬のをなむけしたる」

溯みちぬ風も吹ぬべしと」

けふハ京のみぞ思ひやらるゝ」

もし風波のまばしとをしむ心やあらん」

かくてこの間にことおほかり」

今宵月ハ海にぞいる」

かくて漕行まに〳〵海のほとりにとゞまる人も遠くなりぬ船の人も見えずなりぬ岸にもいふ事あるべし船にもおもふことあれどもかひなし」

かぢ取又鯛もてきたり米酒まば〳〵くる」

いつか深崎といふ所わたらんとのみなん思ふ」

男どちハ心やりにやあらんから歌などいふべし」

けふ船にのりし日よりかぞふれば三十日あまり九日に成にけり」

都テ係辭ト結束言辭トノ本末關係ハ、右ニ説明セシ如ク心得ズンバアル可ラズ、然ルニ又於是二ノ注意スベキヿアリ、ソハ一句ノ間ニテ係辭相重ナルヿアル心得ト、長句ノ間ニテ係結二重ニ相調フルヿアル心得トナリ、其例左ノ如シ、

係辭相重ナル格

一句ノ間ニテ係辭相重ナル時ハ、其主タル重キ者ニ從フベシ、譬バはもトぞやかこそハ重キニヨリ、重キ故ニ其時ハはもハ輕くぞやかこそハ重キニヨリ、重キ方ニ從フベシ、和歌ヲ引証シテ、其例ヲ示セバ、

奥山に紅葉ふみわけ鳴鹿の聲きく時ぞ秋はかなしき

さくら花とく散りぬともわがぬし人の心ぞ風も吹わへぬ

たがために引てさらせる布なれやよをへて見れど取る人もなき

都にはたれをか君ハおもひおる都の人ハ君を戀ふめり

駒なべていざ見にゆかん故郷は雪とのみこそ花はちるらめ

人をれもふ心木葉にあらばころ風のまに〳〵散も亂れめ

右ノ中、ぞやかトこそトハ相重ナルヿナシ、

係結二重ニ相調フル格

長句ノ間ニテハ、係結二重ニ相調フルヿ多シ、其例左ノ如シ、

東雲にあゝでわかれ〳〵袂を露ぞやわけはと人のとがむる

命をいかならんとハ思ひこゝ生て分るゝ世にこそ有れき

影こほる霜夜の月ぞ秋をおきて時こそあきとさやけかりける

花をこそ人やをるとて咎めしゝ數ならぬ身をいかにかハせん

故郷を出にし後は月影ぞ昔も見きとおもひやらるゝ

右二例ハ、文章ニハ殊ニ多シテ、其關係スル所數句ヲ隔

テタル等アリ、今和歌ヲ引証シテ説明スルハ甚覺リ易キヲ以テナリ、

第十一章　論語上諸類

語上ノ諸類トハ、言語ノ上ニ延言アリ、約言アリ、畧音言アリ、通音言アリ、音便言アリ、變濁言等アルヲ云フ、抑此諸類ハ、言語上ノ音便ニヨリテ成立タル者ニシテ、時代ノ等差アルモ一般眞正ノ言語ニアラサル也、其諸類左ノ如シ、

論延言幷約言

延言約言ハ、元來文句上ノ語調ヲ整理スル爲メ、便宜ニヨリテ或ハ延シ或ハ約メタル者ナリ、譬バ見るヲみら〱、聞くヲきか〱、思はぬにヲれもはなくにト云ヒ、持上ヲもたげ、手洗ヲたらひ、消ヲけトト云フ類是ナリ、此等ノ

言語ハ、上古ノ歌書ニ多ク見ユレモ、中古ヨリノ文書ニ用ヒタルヲ見ズ、畢竟和歌ハ語調ヲ貴ム者ナレバ、如此便宜ニヨリテ本言ヲ延約シタル者ナル可シ、

雖然、此本音ヲ延約スルニ、漫リニ作爲セシ者ニアラズシテ、一定ノ規格ニ依レリ、規格トハ即五十音韻圖ノ行位ニヨリ反切スルヲ云フ、反ハ延音ニシテ、切ハ約音ナリ、譬バ見るノるヲ反用シテらくトシ、きゑヲ切用シテけトト爲スガ如シ、

延言ハ、多ク一語ノ終尾ノ音ヲ反用セリ、

人のきかくに　　人のきくにナリ
我なげかくを　　我なげくをナリ
れもはしめさく　　れとはしめすナリ
いはくもしるく　　いふもしるくナリ

雨のふらくに
人のかたらく
たてまつらく
夜の更ぬらく
かざしつらく
そむかれなくに
雨のふらなくに
友ならなくに
よけくあしけく
をしけく
戀しけく
長けく
遠けき

雨のふるにナリ
人のかたるナリ
たてまつるナリ
夜の更ぬるナリ
かざしつるナリ
そむかれぬにナリ
雨のふらぬにナリ
友ならぬにナリ
よくあしくナリ
をしくナリ
戀しくナリ
長くナリ
遠きナリ

約言ハ、二語ノ中間ノ音ヲ切用セリ、

さゝげ
かゝげ
うたげ
わぎも子
うつて
駒をはさせて
長閑けからまし
嬉しからまし
あやしかりけり
志ほらざらまし
聞えざるらん
思をざりき

さしあげナリ
かきあげナリ
うちあげナリ
わがいも子ナリ
うちすてナリ
駒をばしらせてナリ
長閑けくあらましナリ
嬉しくあらましナリ
あやしくありけりナリ
志ほらずあらましナリ
聞えずあるらんナリ
思をずありきナリ

梅さきたりと　　梅さきてありとナリ
世にも似たるか　　世にも似てあるかナリ
いひおきたれ　　いひれきてあれナリ
死ぬちふ　　死ぬといふナリ
うゝぐちふ　　うゝぐといふナリ
秋ならで　　秋にあらでナリ
友ならなくに　　友にあらなくにナリ
筑紫なる　　筑紫にあるナリ
何か常なる　　何か常にあるナリ
秋の夜なれば　　秋の夜にあればナリ

右二類甚タ多シ、

論略音言

略音言ハ、殆ンド約言ニ類似シタル者ニシテ、譬バのり

ごとヲのりと、あみ引ヲあ引ト云フガ如シ、是又語調ヲ穩和ナラシムル爲ニ、如此セシ者ナリ、然レモ、延約言ノ如ク、一定ノ規格ニ依レル者ニアラズシテ、只一語ノ中ニテ發揚ノ音、又ハ同行同位ノ音韻ヲ省略セシ者也、

あじろ　網代　　あびき　網引
あゆひ　脚帶　　みもり　水守
うつみ　内海　　おいし　大石
かあひ　川合　　かりほ　假盧
たびと　旅人　　なべ　並
のたまふ　告賜

右ノ類ヲ云フ、

論通音言

通音言ハ、次章ニ論ズル音便言ニ類似シタル者ナレモ

大ニ性質ヲ異ニセリ、此通音言ハ、畢竟同行相通シ、同位相通ジタル者ニシテ、音便言ノ如ク、變轉ノ音ヲ假借シタル者ニアラザル也、

かな山　金山　　いな田　稲田
ひや風　冷風　　こわ高　聲高
つく夜　月夜　　た枕　手枕
さか槽　酒槽　　なへ代　苗代
この間　木ノ間　　ほぐし　火串
かざ早　風早　　たか玉　竹玉
のさき　荷前
あれ　我　　さわぐ　サヤグ
はしる　走　　むなき　鰻

右、同行相通ヒシ者ナリ、

ぬるし　漆

右、同位相通ヒシ者ナリ、

論音便言

音便言ハ、本音ニアラザル者ノ二語合唱スル時、便宜ノ他音ニ變轉シテ發出シタル言ヲ云フ、譬バかみかきヲかうがい、拍子ヲひやうし、まいでヲまうでト云フ類是ナリ、此音便言ハ、畢竟本音ノ唱ヘ易キ音ニ變轉セシ者ニシテ、正言ニアラザルヤ明ケシ、故ニ上古ノ文書ニ見ルヿ更ニ無クシテ、中古ヨリノ文書ニ漸次多ク見ヘタリ、蓋中古ヨリハ平常ノ言語多クハ此音便言ニ變轉訛傳シタリト考フ、如何トナラバ、今日ニテモ和歌ヲ詠吟スルニハ、此音便言ヲ用ヒサルヲ以テモ知ル可シ

此音便言ハ如何ナル本音ニテモ、皆うゐんノ三個ノ音

便ニ變轉セシ者ニシテ、其成立ニ二類アリ、一ハ本音ノ音便ニ變轉セシ者ト、一ハ音便ノ余音ヲ唱出セシ者トナリ、其例左ノ如シ、

變轉的音便言　一名尋常音便言

○い音便

ついち　築土　ついたち　月立　さいはひ　幸
さい玉　埼玉　あい田　秋田　さいぐさ　三枝
すい垣　透垣　あいた　朝　くい　串
あつい　暑シ　さむい　寒シ　やいと　燒處
まいて　況

右類語ハ、本音き〜ノいノ音便ニ變轉セシ者也、

○う音便

かう〜　格子　わらうづ　藁沓　はうき　箒

かうど　革堂　まれうど　賓客　かりうど　狩人
なかうど　仲人　つかうまつり　奉仕　なう〜　直衣
こうぢ　小路　てうづ　手水　かうがい　髮搔
さうらふ　候　かうなぎ　巫女　たうげ　峠
かうじ　柑子　とうで　取出　まうで　參出
いたう　甚

右類語ハ、本音くはひへほみむりゐノ、うノ音便ニ變轉セシ者也、

唱出的音便言　一名強音音便言

○余韻音便

〜いじ　四時　〜いか　詩歌　ふうふ　夫婦
やうか　八日

右類語ハ、余韻ヲ唱出セシ者也、

○ん音便

とんどろ 轟　はんな笠 花笠　ほんまり 余リ

すんべる 滑ル　けんづる 削ル

右類語ハ、んノ音便ヲ唱出セシ者也、

○つ音便

たつと〜 貴　かつた〜 堅シ　とつと ハト

あつと アト　きつと キト　もつぱら 専

うつたへ 訴

右類語ハ、つノ音便ヲ唱出セシ者也、

論變濁言

變濁言トハ、清音ノ二語合唱スル時、濁音ニ變ズル者アルヲ云フ、譬バ山人山川花ざくら等ノ如シ、是又便宜ニヨリテ如此唱呼セシ者ナリ、既ニ論ゼシ如ク、我國ノ古

言ハ、濁音及ヒラリルレロノ音ノ首ニアル事ナケレバ、只合唱スル時ニノミ、便宜ニヨリテ、變濁言トハナレルト知ル可シ、此言ハ集合名言ニ多クシテ働言ニアルヿ稀ナリ、働言ニテハ論ずる御覽ぜ〜等ノ如キノミアリ、

穴倉　櫻花　旅人　小川　小田　戸摑　大后

石橋　塩津　敷革　莖漬　横笛　玉琴

右類甚タ多シ、

第十二章　論假字用格

都テ假字ハ、口ヨリ唱出スル所ノ言音ヲ寫ス文字ニシテ、即五十音字及いろは文字是也、故ニあヲやニはヲゑニ寫ス等ノ事アレバ、即言音ノ寫眞ヲ採影シ誤リタル者ト云ハザルヲ得ザル也、由テ今於此假字用格ヲ論ゼントス

抑、假字ヲ誤ルハ、いゐひ○わは○にあへ○をれほ○ぢじ○づず等ノ文字ノ、輕重强弱ヲモ分別セズ、通用スル者ニシテ、其余ノ文字ハ誤ルヿ更ニ無シ、然レドモ中古ヨリ阿行ノいうえトハ通用シテ分別セザレバ是ヲ論セズ、總テ上古ハ言音清朗ニ分明ナリシヲ以テ如此誤リハ無リシヲ、中古ヨリ言音混濁ニ錯雜セシヲ以テ、終ニ如此今日ノ勢トハナレルナリ、故ニ是ヲ古書ニ校訂シテ、誤ルヿ無ル可シ、

此假字ヲ用フルニ當リテ、体言ハ誤ルヿ多ケレドモ、用言ハ誤ルヿ少シ、如何トナレバ、用言ハ其言ノ活動ヲ試ムレバ、直ニ知リ得ベケレバナリ、譬バ逢ハあふト書ス可キカあうト書ス可キカト案ズルニ、逢ハあえんあひあふあへト、四段ニ活動スル働言ナルヲ以テ、あふト書ス

可キガ如シ、只活動セザル体言ニ於テハ、分別ニ苦マザルヲ得ザル也、由テ左ニ誤リ易キ假字用格ヲ掲示シテ、其差別ヲ説明セン、

いゐひ音假字用格

いゐひ分別ナシ難キ音ノ中、大約、いハ語ノ上ニ用フルヿ多ク、ゐハ上ニ用フルヿ少ク、ひハ上ニ用フルヿ更ニ無シ、其誤リ易キハ左ノ如シ、

い

櫂 熊膽 忌 呵 家 犬 朝寢 田舍 敬 紅 猪 大炊 豕

ゐ

鳥居 基 位 藍 地震 膝行 臀

ひ

新山 貝 戀 鯛 鯉

わ゛ゑ゛音假字用格

わ゛分別ナシ難キ音ノ中、大約、わハ上ニ用フルヿ多ク、ゑハ上ニ用フルヿ更ニ無シ、

わ
川　洙雪　烏芋　皺　撓　童子
河曲　鰯　乾　俵
ゑ
戲　膳夫　土器　唾　强飯　兵
疾雨　蛙　膠　參河　和　小澤
則

ゑ゛ゑ゛音假字用格

ゑ゛分別ナシ難キ音ノ中、大約、ゑハ上ニ用フルヿ多ク、ゑハ上ニ用フルヿ少ク、へハ上ニ用フルヿ更ニ無シ、

え
疫病　樓　住江　鰕　案山子　吭　肥太　箙　萌黃
杪　鴨柄　庚

笛
ゑ
笑窪　咲樂　雕　梢　手端　故
末　陶器　聲　酢　巴
へ
和衣　三重　楓　小家　苗　蠅
控　前　往方

お゛ゐ゛音假字用格

お゛ゐ゛分別ナシ難キ音ノ中、大約、おハ上ニ用フルヿ多ク、ゐハ上ニ用フルヿ少ク、ほハ上ニ用フルヿ更ニ無シ、

お
乳母　福　遠祖
を
治　唯々　終　鴛鴦　男　雌雄
女郎花、長　魚　薰　俳優　十
竿　曰　手折　遠近　可笑　蜘
水脉　婦人

ほ

顔　質朴　最愛　勢　氷　小盞

國郡　催

ぢ‖じ音假字用格

ぢ‖じハ、共ニ濁音ニシテ言語ノ首ニアル「無シ、此中ぢ‖ハ重クシテ狹ク、じ‖ハ輕クシテ廣シ、

ぢ

鯵　氏　紫陽花　揖　差別　筋

汝　鯨

じ

虹　灼然　主　辻占　聖人　項

雉　網代　土師　櫨　詰　戸母

禁厭　交

づ‖ず音假字用格

づ‖ずモ共ニ濁音ニシテ、言語ノ首ニアル「無シ、此中づ‖ハ重クシテ廣ク、ず‖ハ輕クシテ狹シ、

づ

梓弓　出　渦卷　賤　四阿　假髮

怕　耻　貧　不覺　蚯、蚓　假床　疵

ず

數　葛　弭　天釧女

鈴鹿　鼠

語典終

明治廿一年六月二日印刷
同　廿一年六月五日出版
（定價金五十錢）

著作者　京都府平民　山口直吉
下京區第十五組万壽小路第二百十九番戸寄留

發行者　京都府平民　田中治兵衛
下京區第五組寺町通四條上ル大文字町十八番戸

印刷者　大阪府平民　長谷川誠三
東區本町壹丁目十七番地大阪國文社長

發兌所

東京日本橋區通壹丁目	大倉孫兵衛
仝　日本橋區通貳丁目	稻田佐兵衛
仝　通三丁目	丸善商社書店
仝　横山町三丁目	辻岡文助
仝　京橋區南傳馬町一丁目	吉川半七
仝　神田區表神保町	富山房書店
大阪北久太郎町四丁目	柳原喜兵衛
仝　備後町四丁目	梅原龜七
仝　備後町四丁目	吉岡平助
尾州名古屋本町三丁目	川瀨代助
濃州岐阜米屋町	三浦源助
越前福井照手上町	岡崎左喜助
加州金澤南町	池善平
越中富山東四十物町	中田書店
周防山口中市町	宮川臣吉
雲洲松江本町	園山喜左衛門
肥後熊本新貳丁目	長崎次郎
薩摩鹿兒島六日町通	吉田幸兵衛

815
Y267g

078349-000-6

815-Y267g

語典

山口　直吉／著

M21. 6

DAC-1986